

平成28年第4回定例会（一般質問）

9月12日の議会において下記の3点について質問を行いましたので内容を要約してご報告いたします。

1. 「来年度に向けた道路予算」について
2. 「小中学校のエアコンの暖房使用」について
3. 「子ども食堂の支援の推進状況」について



【質問の概要】

1. 市民の安全・安心な暮らしの基礎となる、**道路の整備や維持管理の予算確保**にしっかりと配慮するように
2. 子どもたちの学習しやすい環境を整えるため、夏場だけでなく、寒さが厳しい**冬場もエアコンの運用を**
3. 「**こども食堂**」への支援で把握した様々な課題を整理し、より良い事業として更に支援の輪がひろがるように

平成28年9月 福岡市議会議員 国分徳彦

〒815-0042 南区若久3丁目 39-15 TEL (541) 1717 FAX (541) 3377

1. 「来年度に向けた道路予算」について

～市民生活に身近な生活道路の整備予算の充実など～

■質問 1

現在、福岡市のまちづくりは、元気で住みやすいまちを、さらに発展させ、「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環の実感を広く行き渡らせるよう、取り組みが進められています。

福岡市を訪れた方々から、「福岡は良いまちだ」と評価されており、福岡がよくなることは、たいへんうれしく、誇りに思います。

しかしながら、福岡市は都心部だけではありません。実際に福岡で生活をしている市民は、どのように感じているのでしょうか。自分の住んでいる身近なまちが、もっとよくなることを望んでいるのではないのでしょうか。それはまさに「生活の質の向上」の取り組みであり、より市民に身近な生活道路の整備や維持管理ではないのでしょうか。生活道路の現状について、どのように考えているのかお尋ねします。

●回答 1 【道路下水道局長】

生活道路については、市民に最も身近で、生活を支える重要な基盤です。子供から高齢者まで、すべての人々が安全で快適に移動できるよう、歩道のフラット化や通学路の安全対策、また老朽化する道路のアセットマネジメントの推進など、限られた予算を効果的に活用し、しっかりと整備や維持管理を進めていく必要があると考えています。

■質問 2

道路整備にかかる、過去5年間の福岡市の当初予算の推移はどうなっているのかお尋ねします。

●回答 2 【道路下水道局長】

年度	全体予算	うち区役所事業
平成 24 年度	約 238 億円	約 78 億円
平成 25 年度	約 229 億円	約 78 億円
平成 26 年度	約 213 億円	約 78 億円
平成 27 年度	約 205 億円	約 72 億円
平成 28 年度	約 198 億円	約 71 億円

■質問 3

5年間の道路整備にかかる予算は、減少の一途をたどっています。特に、南区においては、7区の中で唯一、地下鉄がなく、バスをはじめとした自動車が通行する道路や身近な生活道路の整備など、いずれも南区市民が切に希望しており、市民の安全・安心な暮らしの基礎となる道路の整備や維持管理は、特に重要であると考えております。「総務企画局」や「財政局」においては、今一度、道路下水道局とも十分連携して、次期プランへの反映や道路予算の確保にしっかりと配慮するよう強く要望します。

2. 「小中学校のエアコンの暖房使用」について

～児童生徒の学習しやすい環境整備に向けた暖房の運用を～

■質問1

「学校施設空調整備事業」の概要についてお尋ねします。

●回答1 【教育長】

「学校施設空調整備事業」については、夏の暑さから児童生徒の健康を守り、学習しやすい環境を整えるために、市立小中学校の全普通教室 3,272 教室に整備したものです。

■質問2

冷房が使用できるようになり、やっと夏場の学習環境が整ったわけですが、同様に、冬場の学習環境の改善にも留意する必要があります。冬場の教室の温度調査を行ったそうですが、その結果をお尋ねします。

●回答2 【教育長】

項 目	調査期間・対象	26 年度	27 年度
10℃未満が測定された学校	平成 26 年度・27 年度の 1月と2月	124 校	133 校
		30 校	58 校
それが5日以上あった学校	すべての小中学校が対象	46 校	110 校
		5 校	47 校

■質問3

寒さが厳しい日は、教室の温度がかなり低くなり、子どもたちが勉強に集中できないという状況ではないでしょうか。せっかく整備したエアコンに暖房の機能も付いているわけですから、これを有効活用して、夏場だけでなく、寒さが厳しい冬場も含めた、年間を通して、子どもたちが、さらに明るく健康で、学習しやすい環境を整えるという趣旨で、教室でのエアコンの暖房の運用を行うよう強く要望します。

3. 「子ども食堂の支援の推進状況」について

～市内全域での「こども食堂」の活動に向けて～

■質問1

「こども食堂」は、子どもに食事を提供するだけでなく、一人で食事をしなければならない子どもに温かい居場所を提供するなど、「子どもの居場所づくり」として大きな役割を果たしています。「こども食堂」の活動というのは、「市民の善意の力」、「やさしさの力」、「子どもたちをなんとかしてあげたい」という「思いの力」によって支えられています。「こども食堂」の広がりには、我々、福岡市民の「善意の力」を測るバロメーターとも言えます。今年度から、民間団体が行う「こども食堂」に対する支援が開始されたが、支援の概要とどのような効果があったのかお尋ねします。

●回答1 【こども未来局長】

「子どもの食と居場所づくり支援事業」については、子どもたちへの食事の提供に加えて、学習支援などの居場所づくりをすることなどを要件とし、募集の結果、14団体への支援を決定しました。また、14団体のうち新たに活動を始めた団体が9団体、既に活動していた団体についても実施回数を増やすなど、活動内容の充実が図られるといった効果がありました。

■質問2

今後、各団体が、「こども食堂」を運営していく中で、様々な課題浮かび上がってくると思われます。28年度は、「モデル事業」と位置づけ、それらの課題をしっかりと把握し、整理を行ったうえで、よりよい事業とすべきと思いますが、どのように進めていくのかお尋ねします。

●回答2 【こども未来局長】

国分議員ご指摘のとおり、今年度は「モデル事業」として実施し、福岡市と実施団体とで情報交換の機会を設け、運営上の課題などを把握し、また、スクールソーシャルワーカーや民生委員・児童委員などの地域や現場の声も聞きながら、課題の整理を進めていきます。

■質問3

「こども食堂」の支援に対して、二つ意見を申し上げます。一つは「こども食堂」のあり方です。「こども食堂」の取組みについては、マスコミで報じられる機会が増え、関心が高まっている一方で、「こども食堂」イコール「貧しい家庭の子どもが行く所」とイメージされることで、子どもたちの足が遠のいてしまうのではないかと危惧しています。また、子どもがひとりぼっちでご飯を食べる「孤食」も大きな問題です。もう一つは、「こども食堂」の活動拠点の数です。「こども食堂」の活動で大切なのは、取組みが、市内全域に広がっていくことです。地域に貢献したいと考えている企業などにも「こども食堂」の輪を広げていくことを考えるべきではないでしょうか。将来的には、市内全域で「こども食堂」の活動がなされていることが、私の理想とするところです。「子どもの食と居場所づくり支援事業」の今後の方向性についてお尋ねします。

●回答3 【こども未来局長】

国分議員ご指摘のとおり、この取組みは、市民の善意、やさしさ、そして子どもたちに対する「思い」に支えられて、成り立っていると考えています。

今後ともそのような市民の善意を大切に、より多くの担い手によって子どもたちを見守り支える活動が広がっていくよう、しっかりと取り組んでまいります。

御覧いただきありがとうございます。ご意見・ご要望等お気軽にお寄せ下さい
こくぶ徳彦 事務所 〒815-0042 南区若久3丁目39-15
TEL (541) 1717 / FAX (541) 3377